

インドネシアに 内視鏡診療を

神戸の団体普及支援

医療の国際交流を進める一般社団法人国際フロンティアメディカルサポート（神戸市中央区）などが11月から、インドネシア・ジャワ島スラバヤの州立ストモ病院（約1500床）に対し、消化器疾患の内視鏡診療について技術協力と専門医育成に取り組む。神戸市を通じて国際協力機構（JICA）に提案し、認められた。神戸大などの協力を得ながら同国全体の医療水準向上を目指すという。（金井恒幸）



スラバヤは、首都ジャカルタに次ぐ同国第2の都市。同病院はスラバヤで最大規模だが、使える状態の内視鏡機器は1台だけで、専門医も数人にとどまる。1日に10人ほどしか診療できず、待機患者が廊下や屋外で地面に座って長時間過ごし、野宿することもあるという。

専門医3倍、診察患者5倍目標

医師育成や技術協力

内島ワジャ州立病院で調査して内視鏡診療の現状を知った。今年11月に神戸・ポトアイランド2期で開院する神戸国際フロンティアメディカルセンター（KIFMEC）と協力して支援しようと、JICA事業に応募した。

医療・福祉コンサルティンクのネクサス（東京）との共同事業となる。期間は17年3月までで、事業費は約6千万円。ストモ病院の医師や看護師、臨床工技士を対象に、スラバヤと神戸で消化器内視鏡診療や機器保守の研修、手技の模擬訓練などを行う。内視鏡専門医を3倍以上に増やすほ

ストモ病院 スラバヤには神戸大と協力関係にあるアイランガ大があり、ストモ病院は同大の教育病院で医療人材の供給拠点。同病院で内視鏡専門医を育成することで、地域全体の医療技術向上が期待されている。



廊下で診療の順番を待つ患者ら。野宿をすることもあるインドネシア・スラバヤ、ストモ病院（提供）

か、患者の予約システムを作って1日の診療回数を増やし、診察できる患者を5倍以上にするのが目標という。内視鏡を使うことで、切開手術をせずに済み、患

者の負担を軽減できる。KIFMEC理事長も務める田中統一・同法人理事は「ストモ病院は公立なので治療費が安く、遠方の島々から多くの患者が集まってきている。内視鏡医を育成して患者の待ち時間の短縮につなげ、通院の負担を軽減したい」と話している。